

「ユニバーサル都市・福岡」児童向け副読本改定委員会(第1回) 議事要旨

1 日時:令和4年8月24日(水) 18時30分 から 20時00分 まで

2 場所:福岡市役所15F 1501会議室

3 出席者:

張委員長、明石副委員長、永野委員、吉田委員、吉住委員、井原委員
(オブザーバー:井上小学校教育課長)

4 開会

委員紹介、趣旨及び主な論点について事務局より説明

5 議事(委員からの主な意見)

<目指すべき副読本の姿について> ※付箋整理

- ・児童だけでなく教師も授業で使いやすいもの
 - ・デジタル教材のメリットを活かしたもの
 - ・児童が自由にカスタマイズ出来るもの
- ・児童が授業中だけでなく、日常生活でも使えるもの

<現在の副読本の使われ方の確認>

- ・学校により異なるが、総合学習の時間を使って、45分の授業を約20回で1単元として授業をしている学校が多い

<スケジュールについて>

- ・今年度はプロトタイプを作成し、次年度いくつかの小学校で使ってもらい、実際に現場で出た意見をフィードバックして完成させていくという工程を踏みたい
- ・次年度以降も本委員会を継続したい

<教科書の書き込みについて>

- ・PDFには直接書き込めないので、ノートとなるものを用意する必要がある

<その他>

- ・イラストや動画などの素材をそれぞれ分けて使えるように提供して、授業に合わせて、教師が自由にカスタマイズ可能にするのもよい
- ・教師用の活用ガイドについては、可能な限りシンプルなものにして、より分かりやすく短時間で理解できるものにする必要がある

6 閉会

●児童だけでなく教師も授業で使いやすいもの

授業で使いやすい
使いやすい学習プリントがついている
書き込みながら使える
見やすいデザイン(文字は少なめ?)
先生方も学びやすい
何度も使いたくなる
1回で終わらないような学び、考え続ける行動を促すにはどうするか…
学びたいタイミングで復習もしやすい環境
子どものなじむイラストなど
イラストがかわいい(興味を引く)
UD のアイデア集
UD カード
子どもたちの UD 行動に評価できるよう(UD シール)
子どもたちとともに UD 副読本を使っていく仕組み

○デジタル教材のメリットを活かしたもの

ゲームなどになっていて遊びながら学べる
事例がたくさん←実際のリアルっぽく感じられる(VR みたいな機能)
文字・映像・音声・ゲーム、人に合わせた様々なメディア対応
音が出る(読み上げ)
1人1台端末でアクセスしやすい
写真や動画などを追加できる
QRコードなどで学校の外ともつながれる
デジタル化で書いたことを共有しやすい
多くの事例が…写真 動画
親しみやすいキャラ、ストーリー まんがテイスト アニメーション(動画)とリンクする
デジタルの良さを最大化す五感を活かせる教科書
拡大すると掲示物にも使える
実在の人(ゲストティーチャー)ともつながれる
紙…”発表”だと手をあげられない子→ツールでコミュニケーションを進める 感じたこと、考えたことを共有しやすい!!
アクセシビリティ・ユーザービリティ・PDFとネットが融合

○児童が自由にカスタマイズ出来るもの

学びの入口でありガイドでもあり気付けばポートフォリオ
学びの入口であり解説書でありポートフォリオ
自由・シンプル・考える出発点というか原点
自分の問題として感じられるモノ
様々な立場を実感しやすいツール、文章だけではなくロールプレイ?自分事として…
ハード→ソフト(自分ごと) UD と現状のギャップに気づく社会参画の意識をもてるように自分の行動を考える
副読本のスタイルは資料集?ワークブック?書き込み…子どもがどんどん読み進めたいくなる読み物。写真・イラストたっぷり!

冊子(まとまり)になって学びストーリーを振り返れる
自分たちができることすることの課題づくりのヒントになるもの
『ポジティブ』副読本を持っていて自信を持たせてくれるようなネーミング
子どもが自慢できる教科書
理解の段階に応じて使い分けられる
楽しく勉強できる
楽しく実感できる“学び”とか“勉強”じゃなくて。
4年生 誰一人取り残さない
子どもたちを誰一人取り残さない(学習への参加)
目が見えない子も耳が聴こえない子も楽しめる!副読本

●児童が授業中だけでなく、日常生活でも使えるもの

副読本を持って教室を出て外や街にでかけたくなる
子どもだけじゃなく家族や友人と一緒に楽しめる ≡ 防災教育
もってかえって家の人にも使ってもらえる
家庭みんなで見られる考えられる
家にいても(学校外でも使える)
子どもたちが家族や友達と共有したくなる
子どもたちの会話の種になる教科書
まわりにある課題を解決できるようになる
他の人に教えたいくなる
自分の周りの課題発見
ユニバーサルデザインを自分でもつくれるようになる
他の授業でも使うことができる
副読本とともに子どもたちの UD 交流会も一緒に
交流できる
理解から行動に移るようなもの
やさしい気持ちになれる
人にやさしくしたくなる
合理的配慮
障がいの社会モデル
子どもの成長につながる
考えさせる内容になっている
福岡市らしさが入っている(オリジナリティ)
福岡らしさ
当事者の方の思い・願い
マイノリティの気持ちを代弁してくれる
“困っている人”の困り感を軽くする手がかり
ダイバーシティ×インクルーシブ×イノベーション=UD

「ユニバーサル都市・福岡」児童向け副読本改定委員会(第2回) 議事要旨

1 日時 令和4年10月19日(水) 16時から18時まで

2 場所 福岡市役所15F 1502会議室

3 出席者

張委員長、明石副委員長、吉田委員、吉住委員、井原委員(欠席:永野委員)
(オブザーバー:井上小学校教育課長)

4 開会

第1回改定委員会の振り返り

5 議事(委員の主な意見)

○コンセプト ※(別紙)によりオーソライズ

- ・全体コンセプト「誰一人取り残さない」の「誰」の部分について見つめ直す必要がある
- ・現在の副読本も使いやすいので、引き継げるところは残していく

○具体的な使われ方について

- ・現在、グーグルスライド、ジャムボード、オクリンクといった様々なデジタルツールを用いて授業が行われているが、将来どのデジタルツールが使われ続けるか分からない
- ・使いやすさ、共有のしやすさ、デジタルツールへの依存性の少なさ等を総合的に勘案すると、副読本の改定後のかたちは、WEB サイトが最適である
- ・情報保障の観点から合理的配慮の実現を考えるとWEB サイトは最適である。
- ・WEB サイトを構築する際には情報アクセシビリティ及びユーザビリティを考慮する必要がある
- ・実際の授業では、教員が一人一台端末を用いて、WEB サイトの副読本を見ながら説明し、使いやすいデジタルツールを用いて児童が発表する流れが想定される

○副読本の内容について

- ・当事者の声を聴けるように、副読本に盛り込んでいく
- ・多様性の面では、時代にあった新たな事例を盛り込み、細かい修正が必要となる
(子ども、ジェンダー、聴覚過敏、認知症、見た目では分からないような人など)
- ・児童が知識を得る前に、体験を踏むといった構成(流れ)はよい

- ・マイナスだけでなく、プラスも体験できるような「気付き」を得られる体験が重要
- ・WEB サイトにした場合、不特定多数の方が閲覧可能となるので、サイト自体の説明（小学生がユニバーサルデザインを学ぶためのサイト）が必要になる
- ・WEB サイトにした場合、ユニバーサルデザインについて学べる様々なリンク集も入れるとよい
- ・WEB サイトにした場合、多言語表示できることが望ましい必要が、本年度は、まずは日本語でしっかりつくるべき
- ・WEB サイトでは、事例発表集のようなかたちで、子どもたちの発表の場にも活用できるとよいが、子どもたちの発表内容を WEB サイトに掲載するならば、個人情報や著作権等の面で、慎重な対応が必要である
- ・WEB サイトにかたちが変わることもあり、“副読本”よりキャッチーな名前があるとよい
- ・ハード面だけでなく、マナーやコミュニケーションといったソフト面の取り組み紹介も重要である
- ・おサルスのロゴが「ユニバーサル都市・福岡」を説明するような展開もよいのでは
- ・教員向けの活用ガイドは、モデルとなる単元計画をいくつか用意して、教員が自由にダウンロードできるよう、PDF データで WEB サイトに掲載すると使いやすい
- ・デジタルコンテンツのメリットを活かして、自分の足でまちに出かけて、ユニバーサルデザインを見つけることが難しい場合に、写真だけではなく映像等で体験できるような仕組みがあるとよい

○ユーザー（小学生）意見の聞き方について

- ・いいものをつくるためにはユーザー（小学生）の意見を聞くことは重要なことであるため、今後調整のうえ、ヒアリングを実施する。

6 閉会

〈全体ビジョン〉

ダイバーシティ ソーシャルインクルージョン

多様性と社会包摂性の視点を踏まえ、ユニバーサル都市・福岡児童向け副読本を改定する

全体コンセプト

- ・ 子どもたちを誰一人取り残さない
- ・ 理解から行動につなげられるようなもの
- ・ デジタルの良さを最大限活かしたもの

コンテンツ

- ・ 多くの事例集
- ・ 遊びながら学べる
- ・ 当事者の思い・願い
- ・ ポートフォリオに

表現方法

- ・ 見やすいデザイン
- ・ イラストがかわいい
- ・ 親しみやすいキャラ
- ・ 福岡市らしさ

使い方

- ・ 家族や友達とも共有
- ・ 副読本を持って教室から出かけたくなる
- ・ 理解の段階に応じて使い分けられる
- ・ 多様なニーズに応えられる柔軟性

その他

- ・ アクセシビリティ&ユーザビリティへのケア
- ・ 復習しやすい環境
- ・ 子どもたちとともに副読本を使っていく仕組み